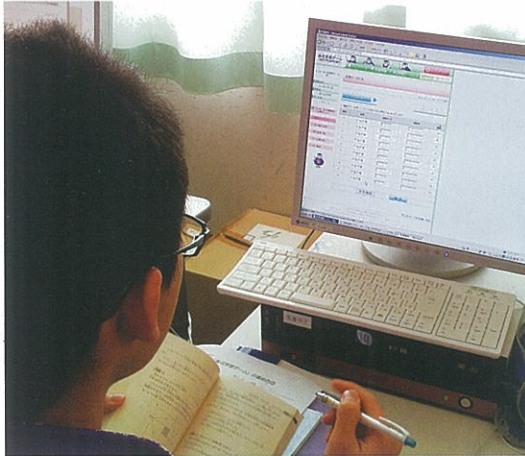


修了生からの
お便り



PC室を使用した授業風景



社会科公民的分野での「株式ゲーム」

思い切って一歩を...

現職派遣を終え「大学院に派遣されて得たものは？」と質問を受けます。具体的にこれだと言える技能を教えられたというよりは、気付かぬうちに間接的に自分の力を育てていたのだと思います。2年間という長い時間、教育現場を離れて学びなおしをする必要性があるのかという意見もあると思いますが、私は一本の修士論文を執筆することで様々な力を身につけることができたと感じています。具体的には、以前より言葉の定義を大切にするようになったり、一般的に言われることや従来の自分の知識を「本当にそうなの？」と改めて批判的に見るようになったりしたことなどです。これをスポーツに例えれば、走りこみや筋トレ

レなどの練習で培った体力がベースとなり、試合の勝負が決まる...ということでしょうか。2年間の大学院派遣という筋トレは、今になって教育現場に着実にその効果を発揮していると自分では感じています。また、派遣が終わった現在でも、大学の学会等には参加させていただいています。ご指導いただいた大学院の先生方には、現在でも教育や研究に関する様々なご指導をいただいております。2年間の派遣期間が終わった後にも関わらず、このような関係を継続できるというところはとても心強い限りです。

近年、派遣元の都道府県の財政状況が厳しくなるとともに現職派遣の数が減少していると聞きます。教育現場を一時的に離れるということに様々な制約や障害が伴うことは理解できます。しかし、それらを差し引いても大学院で学びなおしの時を得る利点はあまりあるものだと修了生として実感しています。教職を志す院生と机を並べて共に学び、時に教育現場を経験する立場から意見を求められ、教育について語り合う。これは教育現場から離れた場所より教育と自己を深く見詰め直す貴重な時間であり、かつ自分の力を鍛える有意義な時間です。現職派遣を考えられている方、どうか思い切ってその一歩を踏み出して下さい。



安岡 卓行
(やすおか たくゆき)

栃木県から現職派遣。平成20年度上越教育大学大学院社会系コース修了。栃木県中学校教育研究会社会部会研究部員。2009.11: 地理写真を使用した読解力の育成に関する実証的研究。新地理, 57-3, pp.14-25.



付箋紙を使った意見交換を伴う授業